

里神楽ワークショップ in 成城大学

～生きている神楽～

事業報告書



2017 江戸里神楽公演学生実行委員会

0. 目次

1. 開催要項 p.2
2. 会場概要 p.3
3. 会場レイアウト p.4
4. 記録写真 p.5-6
5. 神楽写真展 p.7-9
6. 資料展 p.10-11
7. 物販 p.11
8. 制作物 p.12-15
9. メディア紹介 p.16-17
10. 来場者の感想 p.18
11. 会計報告 p.19-21
12. メンバー感想 p.22-24

1.開催要項

■開催趣旨

神楽が誕生したのは、神話の時代。天照大神（アマテラスオオミカミ）の関心を引くために、天岩戸の前で天宇津女命（アメノウヅメノミコト）が舞ったものが日本で最初の神楽と言われています。その古の時代から現代に至るまで、神楽は時代の状況や人々のニーズに応じてさまざまに変化しながら受け継がれてきました。

神楽というと、伝統的なもの、古典的なものというイメージがあるかもしれません。しかし実際は、常に変化し続けており、その中身は不変ではありません。

今回のワークショップでは、神楽の歴史を振り返りその実態を知ると同時に、現役の神楽師の取り組みを通して、今まさに「生きている神楽」を皆様にお届けすること目的に開催します。

■企画内容

第1部 講義「神楽の歴史と変化」 13:00～13:30

講師 倭木悟先生(成城大学文化史学科 准教授)

第2部 実演&ワーク「神楽の現在と未来」 13:40～14:40

演者 垣澤瑞貴さん(相模里神楽 垣澤社中)

第3部 第3部 出演者対談 14:50～15:30

倭木悟先生 垣澤瑞貴さん 田村明子さん (成城大学民俗学研究所 研究員)

■開催日時 2018年3月21日（春分の日、祭日） 13:00～15:30

■会場 成城大学 3号館 311教室

■定員 40名（一般、学生）

■参加費 一般 1,000円 学生 500円

■主催 2017江戸里神楽公演学生実行委員会

■協力 成城大学民俗学研究所

2.会場概要

会場名 成城大学 3号館 311教室

住所 〒157-8511 東京都世田谷区 成城 6-1-20

アクセス 成城学園前から徒歩4分

■会場前面



■客席・物販



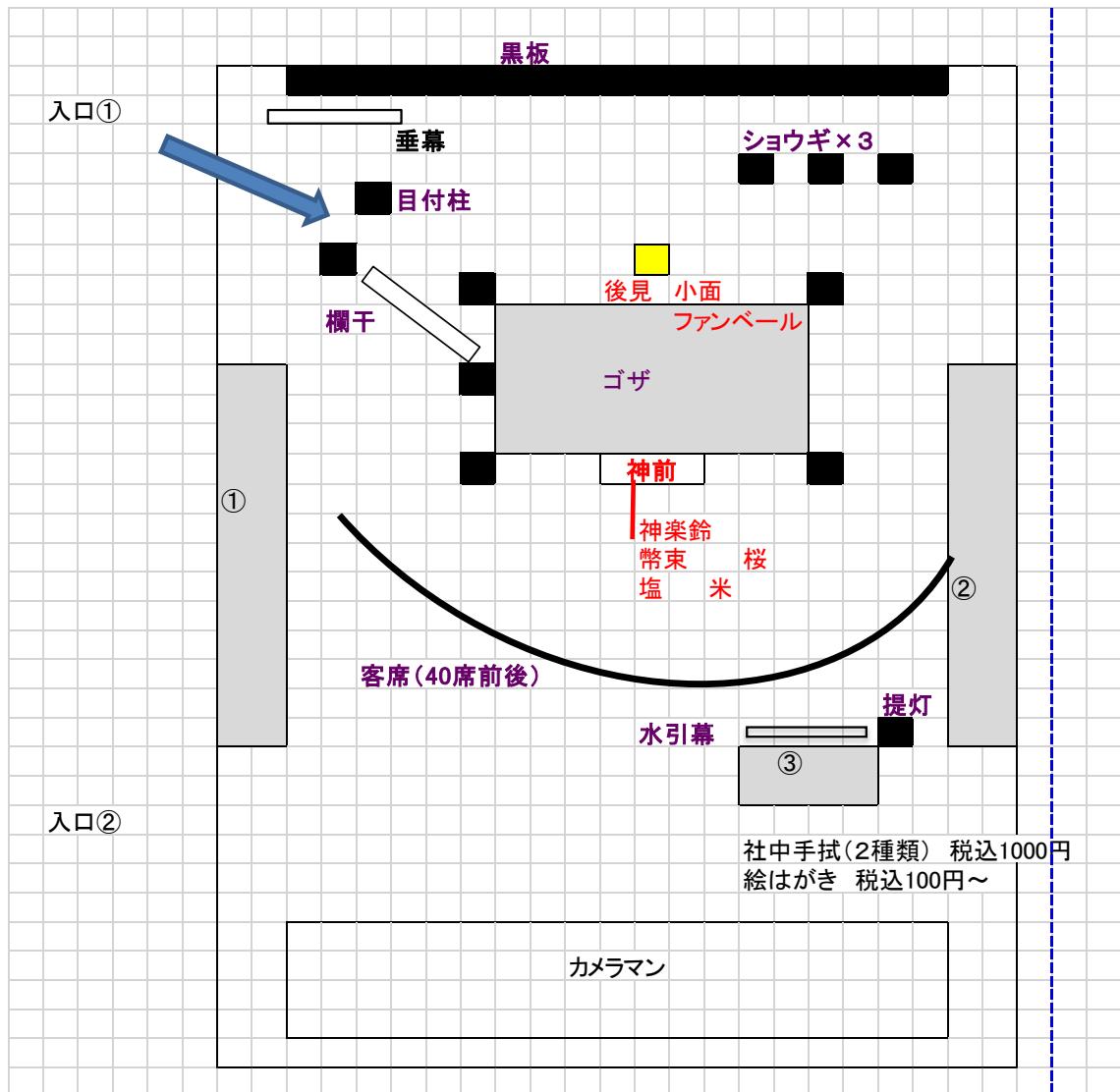
■神楽写真展



■成城学園正門前看板



3.会場レイアウト



① 資料展（江戸里神楽公演プログラムなど）

② 神楽写真展

③ 物販

4.記録写真



副委員長挨拶（鈴木彩子）



第1講座（俵木悟先生）



第2講座 笛（垣澤瑞貴さん）



第2講座 神前舞（垣澤瑞貴さん）



第2講座 木花咲耶姫（垣澤瑞貴さん）



第2講座 木花咲耶姫（垣澤瑞貴さん）



第2講座 ワークショップ（垣澤瑞貴さん）



第2講座 ワークショップ（垣澤瑞貴さん）



第3講座 出演者鼎談^{ていだん}

（俵木悟先生、垣澤瑞貴さん、田村明子さん）

6



全員での記念撮影

（出演者、お客様、スタッフ）

5. 神楽写真展

本講座のテーマ「生きている神楽」に則り、昔から現在までの垣澤社中に関する写真を 11 点、歴史順にご紹介。

展示スペース



展示写真一覧



① 式三番叟 (提供: 垣澤社中)



② 日向之阿岐原身御祓 (提供: 垣澤社中)



② 鶴退治 (提供：垣澤社中)



④山狩り (提供：垣澤社中)



⑤神前舞「奉幣之舞」 (撮影：戸津井直次郎)



⑥新作面芝居「紅葉狩」 (撮影：堀江正次)



⑦新作神楽「根国試練」（撮影：戸津井直次郎）

⑧新神楽舞「木花咲耶姫」（撮影：斎藤修平）



⑨垣澤社中のお囃子（提供：垣澤社中）

⑩垣澤社中の神楽面（撮影：堀江直次）



⑪神楽面制作風景（提供：斎藤修平）

6. 資料展

実行委員会がさいたま芸術劇場で開催してきた神楽公演プログラムや、昨年行われた文教大学特別公開講座の資料など多くの資料を展示。どれも他では手に入らない貴重な資料ばかりである。



展示資料一覧

(1) 第1～9回江戸里神楽公演プログラム・神楽面写真集



(2) 文教大学特別公開講座



7. 物販

垣澤社中オリジナルの手ぬぐいや、川崎直樹さん作のポストカードやマグネットを販売。



8. 制作物（チラシ・プログラム）

(1) チラシ（制作：江戸里神楽公演学生実行委員会 川名 瑞希）

3/21 (祝) 13:00~

講座 講師：俵木悟
全国の神楽の歴史と変化
を分かりやすく解説！

実演 演者：堀澤瑞貴
さまざまに変化して
きた神楽の現在を実演と
共にご紹介！

ワーク 講師：堀澤瑞貴
創作舞「木花咲耶姫」を実際
に体験してみよう！

場所：成城大学 3号館311教室
(小田急線 成城学園前駅)
一般 1,000円 学生 500円

お申込み・お問い合わせ
TEL 090-9953-0299
E-mail edosatokagura09@gmail.com

詳細はこちら
[ホームページ「江戸里神楽公演」](http://www.edosatokagura.com/)

主催:2017江戸里神楽公演学生実行委員会
協力:成城大学民俗学研究所

里神楽ワークショップ in 成城大学 ～生きている神楽～

これが神楽の現在！わかりやすく、面白い、神楽体験講座

神楽が誕生したのは、神話の時代、天照大神（アマテラスオミカミ）の関心を引くために、天岩戸の前で天宇津奈命（アメツクメノミコト）が作ったものが日本で最初の神楽とされています。その古の時代から現代に至るまで、神楽は時代の状況や人々のニーズに応じてさまざまな形に変化しながら受け継がれてきました。

神楽といえば、伝統的なもの、古的なものといったイメージがあるかもしれません。しかし実際は、常に変化し続けており、その本身は不变ではありません。

今回ワークショップでは、神楽の歴史を振り返りその実態を知るに同時に、現役の神楽師の取り組みを通して、今まで「生きている神楽」を皆様にお届けすること目的で開催します。

◆ タイムスケジュール

12:30 受付開始	主催者挨拶
第1部 講師「神楽の歴史と変化」	13:00~13:30
講師 俵木悟先生（成城大学文化史学科 准教授）	
一休憩 10分	
第2部 実演＆ワーク「神楽の現在と未来」	13:40~14:40
演者 堀澤瑞貴さん（相模里神楽 堀澤社中）	
一休憩 10分	
第3部 第3部 出演者対談	14:50~15:30
俵木悟先生 堀澤瑞貴さん 田村明子さん（成城大学民俗学研究所 研究員）	

◆ お申込み

電話またはメールで3月10日までお申込みください。（一般 1,000円 学生 500円）
ご連絡時にお名前、ご連絡先、学生かどうかをお伝えください。
※定員40名様となりますので、できるだけお早めにお申込みください。
TEL 090-9953-0299 E-mail edosatokagura09@gmail.com

◆ アクセス

小田急線 成城学園前駅 北口より徒歩5分
※急行は停車しますが、快速急行は停車しませんのでご注意ください。
※駐車場はご利用になれませんので、自動車でのお越しはご遠慮ください。

(2) 当日配布プログラム (制作: 江戸里神楽公演学生実行委員会 鈴木彩子、玉井里奈)

江戸里神楽公演学生実行委員会主催
成城大学民俗学研究所協力

里神楽ワークショウ in 成城大学
～生きている神楽～

開演 十三時

平成三十一年三月二十一日(水祝)

主催者挨拶
第一部 講義「神楽の歴史と変化」13:00~13:30
講師 倍木悟先生 (成城大学文化史学科准教授)
第二部 実演&ワーク「神楽の現在と未来」13:40~14:40
演者 垣澤理貴さん (相模里神楽 垣澤社中)
第三部 出演者座談会 14:50~15:30
倍木悟先生 垣澤理貴さん 田村明子さん (成城大学民俗学研究所研究員)

相模里神楽垣澤社中

神奈川県厚木市相模川を源流とする相模里神楽は厚木市指定無形民俗文化財である昭和46年認定。

神奈川県、本間に太夫(相模川の舟)の弟子であった相澤庵造氏が明治45年に相澤舟中を創設した。愛甲神楽を継承する花原家(厚木市)と相澤庵造氏となり、十七世紀後半から相模川に伝えたと伝えられている。神奈川県ではもっぱら「神代神楽」と呼ばれるが、花原では岩戸神楽、佐喜神楽、太々神楽、十二郎神楽、廿五郎神楽などと呼称されている。江戸を中心とした里神楽では、神奈川と呼ばれる専門の神楽社中が、神社側の慶事に応じる形で社の神を神奈川と呼んでいる。

神代神楽は神様様式化したのは、寛政201780年に江戸で演じられた京都壬生寺の壬生狂言中後に発生した坂高懸で、演目は能や物語などから取材が影響を受ける歌舞狂言のパロディで、明治・大正時代には「愛甲の新神楽」として各地で盛んに演じられた。

面をつけてセリフを発することが特徴であり、発声しやすいように面の口がやや開いているほか、神代神楽に比べてより人間らしく芝居感が面接となっている。

現在、神奈川県内でも相模里神楽を継承するのは相澤庵造氏ののみで、神楽のもどき的な面白さを取り入れた三つの演目を、劇場を中心に演じている。

(写真 垣澤理貴氏(左)、相模川里神楽垣澤社中(右)に撮影)

黒神楽
江戸には宮中の御神楽之外の民間の神楽をいい、御殿には一般に江戸の里神楽をさす。垣澤社中が伝承する的是「古事記」や「日本書紀」などの神話を題材とした「神代神楽」で、面をつけて行う黒神樂である。神代神楽の発祥は定めではないが、近世前編に属り、十七世紀後半から相模川に伝えたと伝えられている。神奈川県ではもっぱら「神代神楽」と呼ばれるが、花原では岩戸神楽、佐喜神楽、太々神楽、十二郎神楽、廿五郎神楽などと呼称されている。江戸を中心とした里神楽では、神奈川と呼ばれる専門の神楽社中が、神社側の慶事に応じる形で社の神を神奈川と呼んでいる。

神代神楽は神様様式化したのは、寛政201780年に江戸で演じられた京都壬生寺の壬生狂言中後に発生した坂高懸で、演目は能や物語などから取材が影響を受ける歌舞狂言のパロディで、明治・大正時代には「愛甲の新神楽」として各地で盛んに演じられた。

面をつけてセリフを発することが特徴であり、発声しやすいように面の口がやや開いているほか、神代神楽に比べてより人間らしく芝居感が面接となっている。

現在、神奈川県内でも相模里神楽を継承するのは相澤庵造氏ののみで、神楽のもどき的な面白さを取り入れた三つの演目を、劇場を中心に演じている。

面芝居
面芝居とは明治初期に考案された里神楽が演じる歌舞狂言のパロディで、明治・大正時代には「愛甲の新神楽」として各地で盛んに演じられた。

面をつけてセリフを発することが特徴であり、発声しやすいように面の口がやや開いているほか、神代神楽に比べてより人間らしく芝居感が面接となっている。

現在、神奈川県内でも相模里神楽を継承するのは相澤庵造氏ののみで、神楽のもどき的な面白さを取り入れた三つの演目を、劇場を中心に演じている。

事務局
江戸里神楽公演学生実行委員会 2016「巽八郎」美しくて。わ
かりやすい江戸里神楽公演解説プログラム
木川街古 1987「木川里神楽公演解説 墓碑解説版」篠正社
福島アンソリーフ 1999「日本古都大師版」古川弘文館
著者一木川弘文館
吉井一木川弘文館委員会

表紙

講師紹介

第一部 講師
倍木悟 (ひょうき さとる)
成城大学 文学部文学科准教授。博士(学術)。
1999年 千葉大学 社会文化学科研究科 博士研究准教授。博士課程修了。
専門分野: 民俗学、芸能伝承の民俗学的研究、無形文化遺産保護制度の研究。
中国地方各県や鹿児島県、千葉県南房総地域などを中心としたフィールドとして
民俗芸能の伝承についての研究を実施。現代社会において伝統的な慣習に規定
される芸能を伝承することの困難性や、そこから生まれる新たな実践に關心
を持っているほか、文化財保護制度を中心に民俗文化と行政の関わりにつ
いての研究も行っている。
成城大学カーネギライブラリヨリ引用。加藤, 田村 (写真, 本文)
<http://www.ojs.sj.ac.jp/publication/facultystaffinfo/department/entomology/sekkyo/>
2018年3月30日閲覧

第二部 講師
垣澤理貴 (かさわ みづき)
相模里神楽垣澤社中三代目家元 相澤庵造氏の二女。『みづき会』代表。
幼少より神楽舞台に携わり、相模里神楽の囃子、舞を父に師事。10
歳で太鼓、11歳で太鼓、12歳で笛、14歳で相模の能管(垣澤社中で
は王若と呼ぶ)、18歳で式三番叟を学ぶ。國學院大學文学科にて日本史を専
攻し、その後、江戸里神楽多加美社中の高見龍助門、日本舞踊玉川流脚絃
の玉川龍之輔師範、江戸型坐を主軸に創作活動を行う著名な若手染色家の小
倉充子氏に師事し、神楽芸芸を磨き続けていた。
近年は創作神楽や創作芝居にも積極的に取り組み、前の囃さいた玉前座
劇場(第3回)や相模里神楽堂神奈川の公演等、公演の場を広げている。インバ
ウンド企画など新しい取り組みも多岐、現れの実験や各種イベントでの獅子
舞や神楽舞、和楽器演奏などを行っている。
(参考) 垣澤理貴(2018)『江戸里神楽公演学生実行委員会『美しくて。わ
かりやすい江戸里神楽』』(写真) 2018年3月21日
(写真) 相模里神楽垣澤社中 田村明子さん(左)、垣澤理貴さん(右)に撮影

田村 明子 (たむら あきこ)
2012年、成城大学文学研究科日本民文化専攻博士課程単位取得進学。現在は成城大学民俗学研究所研究員。
第2回江戸里神楽公演に学生スタッフとして参加。
「女性神楽の誕生と伝承基盤—堀玉里神楽の伝承代一」(2015『民俗芸能研究』第58号 民俗芸能学会)、「都
市の大社と里神楽—大國魂神社と山本社中一」(2016『伝承』第68号第1号 伝承文化会など、江戸流の里神楽
を中心に研究を進めている。

垣澤社中・神楽解説

MEMO

ご縁にござ
おめでとう
ございました

写真 (左) 垣澤理貴(中)獅子舞(右) (右) 大師様

『里神楽ワークショップ in 成城大学～生きている神楽～』
構成・文責 玉井里奈 鈴木彩子
制作 兼務 2017江戸里神楽公演学生実行委員会
実行年月日 2018年3月21日
印 成城大学民俗学研究所

講師紹介

裏表紙

(3) 第2講座資料 実演&ワーク「神楽の現在と未来」(制作:垣澤瑞貴さん)

里神楽ワークショップin成城大学 ～生きている神楽～

こんには。私は垣澤瑞貴と申します。
これから皆さまと一緒に、わかりやすく里神楽を紹介していくたいと思います。
まず、私自身の自己紹介から。

明治45年に神奈川県厚木市酒匂にて創立。今年で106年を迎える里神楽団澤社にて、里神楽をしております。父より三代目家元である坂瀬義。幼い頃よりから稽古を受け、里神楽の舞台で成長してきました。お教室の運営をしながら、お子さんの指導にあたっています。また、様々なジャンルの舞台公演にも参戦しており、お子さんたちのコラボや新作神楽の制作など、たくさんの方々に里神楽の魅力を知りたいと日々、日々活動しております。

里神楽の舞台公演成長してきました。お教室の運営をしながらお子さんの指導にあたっています。また、様々なジャンルの舞台公演にも参戦しており、お子さんたちのコラボや新作神楽の制作など、たくさんの方々に里神楽の魅力を知りたいと日々、日々活動しております。

● 里神楽の笛

里神楽では主に生演奏です。しかも、野外で1時間近く演奏しならぬ! 正式スポーツ並にハイレベルで、かしこなメリットがあり、伴奏が難しくなってたりになります! イエットに本当にちょうどいいです!

◆神前笛: 神樂の吹いた笛やからかう笛
◆玉笛: 神樂の笛
◆能笛: 神樂が笛と合わせた重くて軽い音

里神楽は、笛や太鼓などから違う音色で、大変面白い神楽です。これは、笛子が舞台の音楽の役割を果たしておらず、様々な舞台表現が求められるところに由来します。

特徴: 管はギターやボーカルのようメロディを刻む立場なので、曲数もたくさんあります!

● 舞踊譜と舞地図

正直なところ、口伝で世界でやりたいから、相対確古は必要ですが、難易度や音楽、動感がないと残せません。難易度を活用することで、時勢に応じて、現代人でも自宅で稽古できる上、早く笛を身につけることが可能です。

伝統は、昔と同じやり方では続きません。だって環境が違いますから…

● 新神楽舞「木花咲耶姫」

最後、ふと「歌のために残してあらわれるものって何だろう」と考えました。その時に「歌のために神楽を創ろう」と思ったことが制作のきっかけでした。

彼は「木花咲耶姫」にあやかって名前を付けたので、歌をお仕立てしたかったですし、神楽師として新作を創るというハンドルの面白いことに挑戦したい気持ちもございました。

関東近辺の里神楽では、新作はほとんど見受けられません。しかし、確実に歌わゆる中で、人々の求めているものは昔とは確実に変化しています。

昔のものを昔のまま残せることもまた「魅せる」技術が必要です。その「魅せる」手段は、もつと進化させる必要があります。

日本人として生まれて、古典を愛する私にとって、古の日本を歌ってお伝えしてお伝えし、その能力を知っていたら、それが使命だと思っています。

【あらすじ】
木花咲耶姫は歌が好き歌るようにはそれましに死んでいた。

ある日姫はアマテラスオオミカミの娘ニギノミコと出会い瞬間に恋に落ち結婚した。

一夜にして身代った姫。

ニギは疑い里神楽の子ではないと悶う。姫は愛慕しニギの子と認証するため内熱の火に包まれ縁りで産むことを告げた。

無事に生まれたから、ニギが柳子。そううまく自ら里神楽に歌を歌わせ盛る炎の中姫は産り、戸を閉めた。

長い長い火が流れた。大きな星戸と共に現れたのは強く速い三柱の御子。後の初代天皇の祖先となる子を無事、出産された。

古の神代の時代に生きた強く生き抜いた神の物語。

● ワークショップ

今回のワークショップは、皆様に組になれていただきやすい! 始め登場する山場ではと呼ばれる部分です。

ポイントは…

- ◆基本組と足の運び方
- ◆拜と三三音
- ◆祝舞と見得

しかし、もともと大事なのは…、都度表現です! ぜひ役者になった気分で、皆様にお稽古場でのレクチャーを体験していただきたいと思います。

● 参考資料①舞踊譜

実際のお稽古場では、舞踊譜をお渡します。本来は、白身で書き取っていましたが、見えてこないように黒墨で描かってあります。早く舞台に立つていただけで、舞踊の教材を用意しています。

日本の笛は特に下半身が重要です。円田山一郎は「インソーマッスル」で歌え、上半身の姿勢を保ちながくうねん。今はやうボーリです! 健康の秘訣は下半身の筋肉だと聞かれていました。運動するよりも自然と身体を鍛えられる舞踊らしいアーティスティティでです! ちなみに私は笛で鍛えた腹筋と腰で鍛えた下半身のおかげで、初戦にもかかわらず優勝しました!

● 参考資料②舞地図

里神楽は舞台の四隅を「番む」という所をすることと、四角を縫い満ぬる意味でございます。そのため舞台の四隅は大変重要なです。

同じ場所を行ったり来たり…、意味のないような動きを思えますが、ひとづづつ神事にあやかたった深い意味があるのです。

また、里神楽の小道具は多岐で、お面子に足り、棒の杖、傘などとの神具、刀や槍などの武具といったるで様々ございます。思わず、ずっと続ける舞ばかりです。

今も現役である家元は八歳を過ぎておりますが、大変元気で舞台に出ております。きっと神楽のおかげで継続的に通がっているのだと思います。

● 参考資料③今後の予定

◆神社奉納
日時: 平成30年3月25日(日) 12:45~15:00
場所: 平塚三輪神社
〒254-0806 神奈川県平塚市尾鷲ケ谷6-0-27
電話: 0463-22-3510
演目:「正舞勇かなら寿式三番叟」「天孫降臨」

◆神社奉納
日時: 平成30年4月1日(日) 13:00~14:00
場所: 船井神社
〒243-0226 神奈川県厚木市下津古久494
演目:「高麗山」「御祓衣三舞」

◆結婚式(closed)
日時: 平成30年4月7日(土) 15:00~16:00
場所: 寒川町神社参拝殿
演目:「白扇子と大黒舞」

◆神社奉納
日時: 平成30年4月21日(土) 17:00~21:00
場所: 〒243-0125 神奈川県厚木市小野4-2-6
演目: 未定

◆神社奉納
日時: 平成30年7月31日(火) 17:00~21:00
場所: 駒形神社
〒252-0024 神奈川県座間市入谷1丁目3500
電話: 046-256-1122
演目: 未定

まだまだございます。

● 参考資料④募集中!

◆みづき会でお神楽を習ってませんか?
誰でも気軽に習えるお神楽教室は垣澤社中だけ! 小さなお子様からご年配の方まで、年齢問わざる稽古していただけます。特典は本物の舞台に出でできること!(甚多神教室・厚木教室)

◆みづき会のサポートスタッフになりませんか?
写真や動画撮影、HP作成、グッズ制作、舞台装備や着付、イベント時のお手伝いなど、様々な形でサポートしていただけます。お手伝いに専念することができません。ご自身の得意分野をみづき会で発揮してください!

◆ご自宅で獅子を呼んでませんか?
みづき会ではご自宅で出張強化を行なうことができます。絆縫合日や裏番のおりお事などご自宅で行なう場合は、神楽の衣装や掛け物に夢中! お手伝いしていただけます。お手伝いで神楽を實践していただけるチャンスです!

「里神楽」「ハーフマッチ」は成城大学「生きている神楽」
制作実行:相模原神楽保存振興会 中・垣澤瑞貴
発行年月: 2018年9月21日
印刷: 成城大学出版学研究会

(4) 江戸里神楽ホームページ（制作：江戸里神楽公演学生実行委員会 宮崎 優香）

(http://www.kagura-kouen.com/sei_joworkshop.html)



楽しい、わかりやすい
江戸里神楽公演

◆公演案内 ◆公演の歩み ◆実行委員会 ◆お問い合わせ

★★ 公演案内

★★ 里神楽とは
★★ 第6回公演案内
★★ 第7回公演案内
★★ 第8回公演案内

◆神楽ワークショップin成城大学

3/21(祝) 13:00

講師：大庭一也
主催：成城大学文化系
共催：成城大学文化系学生会
チケット料金：1,500円
会場：成城大学文化系
受付時間：12:30～13:00
開催要項

神楽が誕生したのは、神話の時代。
天照大神（アマテラスオオミカミ）の勧めを引くために、天岩戸の前で天津津姫命（アメノウツメノミコト）が舞ったものが日本で最初の神楽と語られています。その古の時代から現代に至るまで、神楽は時代の状況や人々のニーズに応じてさまざまに変化しながら受け継がれてきました。神楽というと、伝統的なもの、古典的なものというイメージがあるかもしれません。しかし実際は、常に変化し続けており、その中身は不变ではありません。今回のワークショップでは、神楽の歴史を振り返りその実態を知る同時に、現役の神楽師の取り組みを通して、今までに「生きている神楽」を皆様にお届けすることを目的に開催します。

公演日時

3月21日 (祝、春分の日)
13:00~15:30 ※12:30から受付開始

9. メディア紹介

(1) 成城大学ホームページ (制作: 学校法人 成城学園 企画広報部 企画広報課)

(<http://www.seijo.ac.jp/events/jtmo42000000k6ty.html>)



The screenshot shows the official website of Seijo University. At the top, there is a navigation bar with links for 'Inquiries', 'Access', 'Contact', 'Enrollment', 'English', and social media links. Below the navigation bar, there is a main menu with categories: 'Seijo University', 'Education', 'Research', 'Social Contribution', 'Career', and 'International Exchange'. The current page is 'Event', with a sub-link to 'Kagura Workshop in Seijo University - Living Kagura -'.

Event

里神楽ワークショップ in 成城大学 — 生きている神楽 — [終了しました]

開催日: 2018.03.21

成城大学は、江戸里神楽公演学生実行委員会が主催する神楽体験講座「里神楽ワークショップ in 成城大学」を3月21日(水・祝)に開催します。

江戸里神楽公演学生実行委員会とは、「楽しくてわかりやすい神楽」をテーマに掲げ、偉大なる神々の世界をユーモアあふれる演出でまとめた伝統芸能「神楽」を様々な世代や海外に伝えようと公演を行っている学生のボランティア組織。本年度の実行委員長を当大学文芸学部の学生が担当していることから、日本民俗学の祖である柳田國男と縁の深い成城大学民俗学研究所が全協力し、3月に「里神楽ワークショップ」を開催する運びとなりました。

「里神楽」とは、神社の祭礼を中心に行われている芸能のことと、面や装束を身に着けた演者が身振り手振りで表現するのが特徴。今回のワークショップでは、神楽の歴史をたどる謡曲や現役の神楽師による実演、神楽の舞体験などが予定されています。「神楽の今」を知ることのできる体験講座へのご参加をお待ちしております。

3/21(祝) 13:00

里神楽ワークショップ in 成城大学 — 生きている神楽 —

開催概要

日時: 2018年3月21日(水・祝) 13:00~15:30

場所: 成城大学3号館 311教室

内容: 神楽謡座 & ワークショップ

第1部 講義「神楽の歴史と変化」13:00~13:30
講師: 倭木悟先生 (成城大学文芸学部文化史学科 准教授)

第2部 実演 & ワーク「神楽の現在と未来」13:40~14:40
演者: 堀澤瑞貴さん (相模里神楽 堀澤社中)

第3部 出演者対談 14:50~15:30
倭木悟先生・堀澤瑞貴さん・田村萌子さん (成城大学民俗学研究所研究員)

(2)産経新聞 (2018.2.16)

平成30年(2018年)2月16日 金曜日 13版 (東京) 26

イベントガイド

東京

★里神楽ワークショップin成城大学 3月21日午後1時～3時半。世田谷区の成城大学3号館311教室。里神楽の歴史講義と神楽師による実演、体験。参加費一般1000円、学生500円。申し込みは☎090・0953・0299、メールedosatoikagura09@gmail.com。3月10日締め切り。

♪よだ猫まつり 17日午前11時～午後6時、18日午前10時～午後5時。千代田区役所1、4階。猫の成城セリゼを表現する団区、猫グッズや猫形の雑貨などを販売し、収益を不平等な猫の医療費に活用。音楽や落語のライブ。18日には猫の譲渡会(午前11時半～整理券配布)も。

◇梅香る庭園へ 3月4日まで。文京区の小石川後楽園。約60本の紅白梅林が見頃。シャーレザクラ前広場では逛めゆかりの水戸黄門の衣装で記念撮影できる。水戸の名産品販売や植木木。17～23日はJR水道橋駅西口徒步5分の東門も開門。午前9時～午後5時。入園料一般800円。【問】☎03・3811・8015。

千葉

◇さわらぬめぐり 江戸の商店の面影を残す香取、佐原の古町並みで、商家などで代々伝承する古いひな形などを展示。季節ごとの「家宝」を行楽客に見てもらう取り組みの一環で、「佐原まちぐるみ博物館」登録の約70店舗などで。3月25日まで。【問】☎080

神奈川

★第33回友好都市花巻の物産と観光展 18まで。平塚市のひらつか市民プラザ。午前10時～午後6時(18日は5時まで)。平塚市の友好都市である岩手県花巻市。花巻市のお土産をはじめ、銘菓や漬け物などを平塚で販売する。【問】☎0463・25・2520。

★猫相会 3月4日まで。横浜市中区の三溪園。午前9時～午後5時(入園料は4時半まで)。約400本の白梅、紅梅などが見頃を迎える。竜が池をはうような枝振りの「臥竜梅」、花弁の桜元にある鶴(がく)が現代の「銀専梅」は必見。梅の盆栽展なども合わせて大きいに楽しめる。入園料大人700円など。【問】☎045・621・0634。

★梅をめぐる美術 18日まで。横浜市中区の「横の博物館」。午前10時～午後4時半(入館は4時まで)。職手たちの姿をクローズアップした絵画と彫刻を紹介するとともに、資料を通じて著名職人についても知ることができるテーマ展。入館料大人100円など。【問】☎045・662・7581。

埼玉

★奥富ひなまつり 24日～3月3日。狭山市市営の奥富ふるさと館。明治時代のものや、大小さまざまなおひなさま500体が勢ぞろい。手作りのつるしひななどの展示も。入場無料。【問】ふるさとギャラリー奥富実行

(3)東京新聞 (2018.2.18)

Culture インフォメーション

里神楽ワークショップin成城大学～生きている神樂～ 3月21日13時～15時半、成城大学3号館311教室(小田急線成城学園前駅)。神樂の歴史を取り返ると同時に、現役の神楽師の取り組みを紹介。参加費は一般1000円、学生500円。定員40人。参加申し込みは3月10日まで。申し込みと2017江戸里神楽公演学生実行委員会電話090(9953)0299、Eメールedosatoikagura09@gmail.com

憲法問題連続学習講座第30回「ナチスの時代」と現代日本～緊急事態法はなぜ危険か～ 25日13時半、中野区産業振興センター3階大会議室(JR線など中野駅)。東京大

学の石田勇治教授(ドイツ近現代史専攻)の講演。資料料300円(大学生400円・中高生無料)。申し込み不要。☎NPO法人みんなの広場電話03(6454)0993

第4回ふんこうけん(文京の文藝保存交流研究集会)「今日の「出会い」を明日の子育てへ」 25日13時～16時半、文京区立第三中学校(文京メトロ南北線など後楽園駅)。東成徳大子ども文部省講師の下浦忠治さんの講演、分科会や交流会。保育室の用意あり。対象は3歳以上で保育料は30円。参加費700円、スリッパか上履きを持参。保育室は申し込みが必要。問い合わせは実行委員会事務局岡田さん～電090(3907)5213

3つの景観

(4)毎日新聞のニュース・情報サイト 大学倶楽部・成城大

(<https://mainichi.jp/univ/articles/20180326/org/00m/100/005000c>)

毎日新聞デジタル毎日

高校生作文コンテスト

大学倶楽部・成城大

「里神楽」の魅力を気軽に堪能 学生5人が手作りワークショップ開催

2018年3月27日 Text by 成城大

古事記に題材に創作した新神楽を演じる堀潤貴さん

【PR】

八塚圭子×上原弘久 Try&Discover(挑戦と見見)で 保険ビジネスの新たな地平を切り拓く T&D T&Dホールディングス

民間で盛りあがれてきた「里神楽」を楽しむワークショップが3月21日、成城大学で開かれた。学生が企画した手作りの会に、季節外れの雪の中、定員を超える50人以上が足を運んだ。

「里神楽ワークショップ in 成城大学～生きている神樂～」と題した会を主催したのは、「楽しくて、わかりやすい(神楽)」をテーマに活動する団体「江戸里神楽公演学生実行委員会」の5人。神楽の魅力に気絶に耐えながら、公演だけでなく、美術や謡曲も加えたワークショップ形式でした。

まず、中国地方の里神楽を中心として研究している徳木信、芸芸学部准教授が「神楽の歴史と変化」と題してミニ講演を行った。続いて、「相模里神楽」垣塚社中の堀潤貴さん(右)が説明。笛や鼓の種類について、楽器をマスク

(5)J:COM デイリーニュース (2018.3.23)

10.来場者の感想

当日のご来場者様アンケートで頂いたご感想を一部抜粋してご紹介いたします。

第1講座

- 俵木先生の第1講座がよかったです。もっと話を聞きたかった。広島神楽と今日の神楽はかなり異なるので驚いた。 (50代男性)
- 俵木先生の講義を聞かせてもらい、その中で私がやっている伊勢神楽の話題が出てとても興味を持ちました。自分がやっている神楽をやっている神楽を取り上げてもらえるのは嬉しいですね。 (年齢非公開・男性)

第2講座

- 体験もできてとても楽しかったです。時間を長くして一演目くらい観られたらより嬉しいです。 (20代男性)
- 初めて興味を持って参加しましたが楽しめました。舞も観られてよかったです。本物の赤ちゃん登場に大爆笑！ (40代男性)
- 垣澤さんの新作の舞はなかなか斬新でよかったです。新しい神楽をどう現代に生きる様にしていくかを考えさせられました。変わらなくてはならない部分と変えてはいけない部分のバランスをどうするかが、課題となろう。 (70代男性)
- 「生きている神楽」のタイトル通り、要所要所で使われた映像が大変効果的で、私のようなものでもわかりやすかったです。お子さんの成長に合わせて創作されるという、今後の神楽も楽しみです。 (40代男性)
- 舞、所作、スリ足、膝曲げが慣れないため難しく感じた。 (60代男性)

全体を通して

- 私はお神楽を神社の舞台で見たいと思っていますがなかなか機会がないので、今回のようなレクチャーと両方で理解をしていきたいです。大学でお神楽を拝見する時代になったのだなとしみじみ思いました。 (60代女性)
- 大変熱のこもったイベントだった。機会があったらまた参加したく思います。 (70代男性)

11.会計報告

収入

江戸里神楽公演学生実行委員会	41,050
参加費	46,000 (一般 44人 学生 4人)
寄付	22,000
	109,050

支出

出演料	20,000
配布用菓子	10,000
広告費	10,000
お弁当	10,000
装飾品	3,000
小道具 (バインダー・ファイル)	2,050
お土産	20,400
郵便代	1440
懇親会	8,000
繰り越し	24,160
	109,050

＜参考資料＞第九回公演江戸里神楽公演会計資料

実行委員会最後のさいたま芸術劇場公演（第九回公演）の会計資料を掲載します。収支報告は、事業の内容を伝える重要な資料だと考えています。

● 支払い概算一覧（支出総額）

出演団体謝金	150, 000円
会場使用料金	207, 730円
音楽著作権	9, 000円
印刷費	
チラシ印刷費	21, 600円
プログラム印刷費	918, 540円
ポスター印刷費	10, 000円
チケット印刷費	21, 600円
コピー費	5, 550円
写真代	7, 570円
通信連絡費	112, 435円
文具関係費	26, 611円
手土産代	33, 480円
食糧費	22, 963円
翻訳監修費	50, 000円
掲載新聞購入費	1, 302円
WEB 経費	2, 589円
字幕機材レンタル費	18, 900円
動画撮影・写真撮影費	50, 000円

学生スタッフ納会支援費 10, 000円

支出総額 1, 679, 870円

● 収入一覧 (収入総額)

昼公演入場収入 455, 000円

プログラム販売 13, 000円

会場寄付 86, 565円

昼合計 554, 565円

夕公演入場収入 448, 000円

プログラム販売 5, 000円

会場寄付 112, 620円

夕合計 565, 620円

昼公演並びに夕公演収入総計 1, 120, 185円

協賛会社収入 320, 000円

収入小計 1, 440, 185円

シニアスタッフ支援金 239, 685円

収入総額 1, 679, 870円

12. メンバー感想

実行委員長 成城大学4年 馬場 綾音

3月21日、「里神楽ワークショップ in 成城大学」は雪に桜という幻想的な景色の中で開催されました。私たち成城大学の学生による拙い進行ではありましたが、若い方からお年寄りまで幅広い年代のお客様がいらっしゃり、講義・演舞・体験という多様なプログラムを楽しんで頂くことができました。

私たちが本イベントを企画したきっかけは、昨年10月に行われた「文教大学特別公開講座」です。私たち2017江戸里神楽公演学生実行委員会（以降実行委員会）は協力団体として参加し、研究者から直接神楽に関する講義を聞くことにより、何の知識もない状態で見るよりずっと神楽の魅力を発見できることが分かりました。これだけで終わるのは勿体ない。私たちの力だけで、もっと多くの人に神楽の魅力を伝えたい。そんな思いでこの企画を打ち出しました。

一から自分で企画書を作り依頼状を出す、ということは私にとって初めての試みでしたので、成城大学民俗学研究所の林洋平先生を始め多くの人に相談を受けながら進めていきました。よって関係者の方へ無礼な点や準備不足な点も多くお見せしてしまいましたが、出演者・関係者の方が本イベントの価値を高く捉え真剣に取り組んで頂けたおかげで無事当日を迎え、ご来場者の方もそれぞれの思いを感じながら楽しんで頂くことができました。

「第9回江戸里神楽公演」から約2年間実行委員会として活動してきた私にとって、本イベントは最後の活動となり、集大成として持つすべてを注ぎ込もうと尽力して参りました。その結果、「大学での神楽ワークショップ」のパイオニアとなることができ、これからも神楽の魅力を伝える機会へと繋がっていくことを大変喜ばしく思っております。神楽がもっと多くの方の心に届くことを、心よりお祈りしています。

副実行委員長 成城大学大学院博士課程2年 鈴木 彩子

今回のワークショップは、企画段階から実施に至るまで、成城メンバーで一つ一つ話し合いながら進めることができ、とても楽しかったです。垣澤瑞貴様や家元様、俵木先生、民俗学研究所の林様や田村様など、この企画を通じて多くの方とお話しできたことも、とても貴重な経験でした。

瑞貴様から、成城のワークショップが神奈川大学の企画や新しいお弟子さんなど、新しい展開につながっていると伺って、改めて嬉しく思います。この実行委員会は、新しいことや興味があることに挑戦する「場」を提供してくれました。神楽師の方も実行委員メンバー自身も、携わった人が一番得する（楽しい、普段出会えない方と会える、貴重な経験ができる、等という意味で）、という会だと思います。私自身も瑞貴様や実行委員メンバーとの出会いを通じて、自分が将来やってみたいことを再確認できました。

博士課程前期1年の時に実行委員のメンバーとして活動できて、本当に良かったです。

メンバー 成城大学大学院博士課程2年 川名 瑞希

里神楽ワークショップでは客席に椅子を用意しましたが、はじめ客席をゴザにするという案がありました。その話が出た時、俵木先生が「もともと神楽もゴザとかに座って見るものだったんだよ」と仰っていたのがとても印象に残っています。かつてはそんなに近くにあるものだったのか、ということをしみじみと感じました。現在ではホールや講堂などで遠くから鑑賞することも多くなつた神楽ですが、今回のワークショップでは非常に近い位置で見ている人も一緒に楽しむことができたのではないかでしょうか。

現代では神楽を身近に感じられる機会は少なくなっています。私自身も、これまで抱いていた神楽への印象は「遠い」ものでした。このような人々が増えていく社会の中で、神楽をどう続けていくか、その魅力をどう伝えていくかを試行錯誤する垣澤さんや社中の方々の姿を知ることが出来、とても良い機会になったと思います。

メンバー 成城大学大学院博士課程2年 玉井 里奈

今回のワークショップは、普段神楽に親しみのない人々をターゲットとし、講座や実演、ワークを通して、神楽への理解を深めていただくことをねらって企画されたものである。

本ワークショップのテーマをいかにするかを考えたときに思い出したのが、垣澤社中の神楽師・垣澤瑞貴氏の「古典も生もの」という言葉だった。垣澤氏は、社中の里神楽を継承する傍ら、新たな神楽の制作・上演も積極的になさっている。そして、垣澤社中もまた、時代に応じて様々な演目・上演形式を模索しつつ、今日まで存続してきた。

おそらく、神楽に初めて触れる人々が神楽に対して抱くイメージは、「古くから変わることなく受け継がれてきたもの」「古典」といったものなのではないだろうか。しかし現実をみれば、先代の形式を継承しつつも決して不变ではなく、それぞれの神楽師の工夫や試行錯誤を経て、神楽は今日の姿になっている。そしてその存続には、神楽を見ることを楽しみ、あるいはより所としている人々の存在も欠かせない。

そのような神楽のありようをあらわす言葉として思い至ったのが、「生きている神楽」だった。

メンバー 成城大学4年 宮崎 優香

当日雪という足元の大変悪い中行われたワークショップは、大盛況に終えることができて大変光栄に思っています。

普段の生活の中で「神楽」に触れる機会がなかなかないような人たちにも少しでも神楽の魅力、楽しみ方を伝えることができるような講座になったと思っています。

しかし今回ワークショップに足を運んでいただけたような方々は少しでも神楽に興味を持っていた方々がほとんどであるはずです。なので今後の課題としては、まったく神楽というものに关心のなかった人たちにもその存在を少しでも興味を持ってもらえるような活動を行っていくことも必要なのではないかと感じさせられました。

『里神楽ワークショップ in 成城大学 ～生きている神楽～ 事業報告書』

2018年7月6日 発行

制作発行 2017 江戸里神楽公演学生実行委員会

ホームページ <http://www.kagura-kouen.com/>

Eメール edosatokagura09@gmail.com